

人文科学コースフレ発表会が実施されました

12月6日(火)

1月に行われるNSH課題研究合同発表会の代表選考を兼ねたプレ発表会ということで、福井大学学術研究院教育・人文社会系部門准教授の遠藤貴広氏、石川工業高等専門学校教授の團野光晴氏、そして「楽しい学校コンサルタント Second」代表の前田 健志氏のお三方を講師にお迎えし、緊張感のある会となりました。学校内からも、校長先生や副校長先生、教頭先生をはじめ、各科の先生方も多数評価者として参加していただきました。

発表は7分間で、その後3分間の質疑応答の予定でしたが、これまで深く研究を掘り下げてきただけに、各班とも時間いっぱい自分たちの論を展開しました。また、質疑応答の時間では生徒や先生方からの的確な助言や疑問点が出され、次の研究の方向性がさまざまな方面に広がったようです。

この後の最終発表会や、合同発表会に向けて、さらなる研究の深化が期待されます。

発表会の様子

人文科学A班

「物語における継母の役割～継子譚の検証から～」



物語において「継子をいじめる」、「意地悪」などのイメージが強い継母という存在。その人物像と継子との関係性の描かれ方について、またなぜ継「母」であるのかなど、継子譚の検証を通して、多面的に研究を進めた。

人文科学B班

「豊臣秀吉が朝廷と関わりを持ったのは天下統一に影響を与えたのか」



織田信長と豊臣秀吉の対比を用いて、大名と朝廷との関係性を紐解いていった。また、秀吉は朝廷との関わりを利用し、他の大名よりも優位に立とうとしたという点に迫った。

人文科学C班 「現代における色のイメージは国によって違いがあるのか」



高貴なイメージのある色、対立する色(紅白など)、毒を連想する色の3観点から、それぞれの色が国によって違うのは各国の歴史や文化との因果関係があるのではないかという仮説のもと、研究を進めた。

人文科学D班 「聞いている音楽と性格に関係性はあるのか ～BPMの観点から～」



先行研究から、外向性が高い人は気分を上げる時も落ち着かせる時もアップテンポな曲を聴くのではないかと仮説を立て、アンケート調査を通してその立証を試みた。

社会科学E班 「AIを人が裁く社会は来るだろうか？」



2045年にはAIが人類の知能を上回る時点(シンギュラリティ)を迎えるといわれており、AIが起こしうる事件・事故をどのように法的に対処していけるのかを探った。

社会科学F班 「日本とドイツのオリンピックメダル獲得数に違いをもたらす原因」



日本とドイツは人口・国土面積・GDP値が似ているにもかかわらず、メダル獲得数はドイツのほうが多いのはなぜか。歴史、国民性と愛国心、食文化、気候などの観点から調査し、研究を進めた。

社会科学G班

「日本は30代の首相を輩出できるのか」



日本の公職選挙法における、300万円の供託金(立候補者が寄託するお金)の存在が、そもそも若者が国政に進出する際のハードルになっているのではと考え、解決策を探った。

国際学H班 「旧ソ連圏における地域紛争は他地域でも起こりうるか」



ロシアのウクライナ侵攻はなぜ勃発したのか。その要因と考えられるものとして、社会主義国であること、多民族国家であること、もともと同じ国だったこと、冷戦期の対立などの4観点について研究した。

国際学I班

「外国に比べて日本の働き方は悪いのか」



日本人は働きすぎであるとよく言われることから、労働の生産性をあげるために労働環境や雇用形態等を他国から学び、導入できるのではないかと仮説を立てアンケート調査をしながらその解決策を探った。

★「人文科学コース」今後の予定★

- ◎12月15日(木) 県内企業講座①
コマツ製作所/小松マテーレ
 - ◎12月16日(金) 金沢大学留学生との交流会
 - ◎1月17日(火) Jゼミ最終発表会
 - ◎1月24日(火) NSH課題研究合同発表会
 - ◎2月7日(火) 県内企業講座②
コマツ製作所/小松マテーレ
- * 県内企業講座は20人ずつ、2回に渡って上記の地元有名企業2社の見学に行きます